

## 「2018年世界経済の展望」に関する懇談会

期 間： 2017年12月1日(金)

場 所： 経団連会館

来 賓： フローリアン・コールバッハ ザ・エコノミスト・コーポレート・ネットワーク  
北東アジア ディレクター

経済広報センターは2017年12月1日、英国のザ・エコノミスト・グループで、世界政治と経済分析・予測を専門とするシンクタンク「ザ・エコノミスト・コーポレート・ネットワーク」のフローリアン・コールバッハ北東アジアディレクターを招き、「2018年世界経済の展望」に関する懇談会を開催した。

コールバッハ氏はまず、2018年の世界経済について、「2.7%の成長が期待できる」と述べた。ただし、成長の度合いは国・地域ごとにまちまちであり、中国、EUは減速、米国は景気後退の時が近づいてはいるものの当面は横ばい、インドは力強く成長、ロシア、ブラジルは不況から立ち直るものの回復力は脆弱などとした。

一方、国際政治情勢については、流動的な状況が続くとし、その理由として、トランプ政権の外交政策が不透明で安定性を欠くと見られること、英国のEU離脱交渉の難航が予想されること、北朝鮮がミサイル開発を進める姿勢を継続すると考えられることなどを挙げた。さらに、このような国際情勢のなかで、中国の存在感が高まると述べた。



2018年の日本経済については、「個人消費の低迷により、成長率は2017年の1.6%（予測値）から1.2%に低下するものの回復基調は継続、2019年の成長率は1.4%となる」との見通しを示した。さらに為替レートについては、中国経済の減速、米国経済の景気後退懸念などにより、安全通貨としての円への期待が高まり、緩やかな円高基調を示すとした。

以 上